

第 62 回全国美術館会議総会 特別セッション
復興への取り組みのなかで
—全美による支援事業の意義と課題—

日時： 2013 年 5 月 30 日（木）15：45～18：15
会場： 宇都宮東武ホテルグランデ（栃木県宇都宮市）

全国美術館会議は、東日本大震災により被災した美術館等の救援・支援に組織をあげて取り組んでいます。2011 年 4 月に開始された文化財レスキュー事業には、全美の会員館から 100 名を超える職員が参加し、被災地で美術作品や資料の救出にあたりました。また、会員館の協力のもとで広く全国の方々に被災地の美術館等への支援を呼びかけ、義援金を募っています。「東日本大震災救援・支援活動募金」（2011 年 5 月設置、継続中）と「チャリティ・オークション 今日の美術展」（2011 年 10 月開催）を通じて集められた義援金は、2012 年度末で 1 億 5 千万円に達しました。

2011 年 11 月に全美の中に設置された「東日本大震災復興対策委員会」は、この義援金を活用して、被災作品の修復・展示公開、被災施設の復旧と再開、原発事故に起因する風評被害への対応、震災復興をテーマにした展覧会やワークショップ等の開催、美術館等の被害の総合調査など、被災地の内外におけるさまざまな復興対策事業の支援・実施にあたっています。

今回の特別セッションは、全国的美術館が今後もさらに力を合わせて震災からの復興に取り組むため、この一年間に全美の支援のもとで実施された事業の報告と議論を行い、復興に向けた活動の成果と課題を共有することを目的とするものです。

プログラム

1. あいさつ

山梨俊夫（東日本大震災復興対策委員長 国立国際美術館長）

2. 活動報告

「アートの子カラ・いわてのタカラ、救出された絵画たちー陸前高田市立博物館
コレクションからーなど」

大野正勝（岩手県立美術館学芸普及課長）

「全美による当館への支援内容と新常設展示『東日本大震災の記録と津波の災害史』
について」

山内宏泰（リアス・アーク美術館学芸係長）

「高橋英吉展、元気キャラバンなど」

三上満良（宮城県美術館学芸部長）

「見えないものとの闘い～放射線・風評・忘却～」

伊藤 匡（福島県立美術館学芸課長）

「被災写真の安定化処理およびデジタル化について
～陸前高田市立博物館写真資料を中心に～」

三井圭司（東京都写真美術館学芸員・陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト
事務局長）

3. ディスカッション

司会 村田眞宏（東日本大震災復興対策委員会副委員長 愛知県美術館長）

お問い合わせ先

全国美術館会議事務局

〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-7 国立西洋美術館内

TEL: 03-3828-0290 FAX: 03-3828-0295